

ぱぴるす

冬の風物詩

なぜ「針供養」をするのか

2月の季語に「針供養」があります。

2月8日（または12月8日）に針を使う仕事を休み、折れたり古くなった針を豆腐・こんにゃく・餅などの軟らかいものに刺し、神社やお寺に納めて供養してもらったりお祓いを受け、針に感謝し、縫い物、（昔は「お針」ともいいました）が上手になるように願いました。

今では、ミシンはおろか針と糸を持たない家庭もあるとか？

「お裁縫」「針仕事」「お仕立て物」などの言葉もあまり聴かなくなりましたが、30年前には女子の嗜みとしてお茶・お花と並ぶスタンダードの習い事でしたし、女子が「手に職」をつけるための学校もありました。

既製服（プレタ・ポルテ）のない時代、着物はもちろん、洋服も生地屋さんで布地を選んで、縫い子さんお針子さんに仕立ててもらうのが一般的でした。子供服ぐらいは母親が縫ってくれたものです。

針の種類も布地にあわせて、太さ、長さの違うものが銀紙に包まれ、母の裁縫箱に入っていたのを、憶えています。

「針供養」に話を戻します。日本で一番古い針は縄文時代の貝塚から出土した動物の骨を加工したもので、古墳時代に鉄の針が見つかったそうです。人類が氷河期を生き抜いたのは、動物の毛皮を針で縫い合わせて身にまとうことを学習したからで、そのころから「針」は大切な生活道具で、骨から金属の針への技術・手法の転換は、多分革命的な出来事だったのでしょう。針は貴重でしたし、もし部屋の中で紛失してしまえば、子どもや年寄りに怪我をさせるかもしれず、取り扱いにはたいそう気を使ったことでしょう。折れたものや古い針をまとめて処分するには、「針」への感謝をこめて「ご供養」させていただき「針塚」に納めるのが一番良い方法だったのかもしれない。

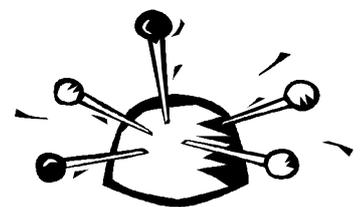
現在、日本の民族衣装である「着物」は、はるかベトナムの女性が仕立てていると新聞に書いてありました。

「針供養」もそのうちベトナムのお寺でとりおこなわれるかも？

「針供養」を行う社寺 神社は和歌山県淡島神社。

お寺は東京浅草寺淡島堂が有名です。

M・Nakamura



新着図書(一般書)

お役立ち本

- 『家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」実践ガイド』 明石書店
- 『学者になるか、起業家になるか』 城戸 淳二/著 PHP研究所
- 『必ず役立つ吹奏楽ハンドブック コンクール編』 ヤマハミュージックメディア
- 『くらしの冠婚葬祭とマナー』 岩下 宣子/監修 新日本法規出版
- 『契約用語使い分け辞典』 新日本法規出版
- 『公文書をつかう』 瀬畑 源/著 青弓社
- 『速書術』 午堂 登紀雄/著 すばる舎
- 『平清盛のすべてがわかる本』 中丸 満/著 NHK出版
- 『楽しい電力自給自足生活』 洋泉社
- 『日本の内閣総理大臣事典』 塩田 潮/監修 辰巳出版
- 『入門 軽キャンパー&コンパクトキャンパー (2011-2012)』 芸文社
- 『ノート・手帳・メモが変わる「絵文字」の技術』 永田 豊志/著 中経出版
- 『パソコンで困ったときに開く本 2012』 朝日新聞出版
- 『ファミリーグループ・カンファレンス入門』 明石書店
- 『北海道雪山ガイド』 北海道の山メーリングリスト/編 北海道新聞社

海外文学

- 『解錠師』 スティーヴ・ハミルトン/著 早川書房
- 『ゴースト・トレインは東の星へ』 ポール・セロー/著 講談社
- 『琥珀の眼の兎』 エドモンド・ドゥ・ヴァール/著 早川書房
- 『写真の秘密』 ロジェ・グルニエ/(著) みすず書房
- 『地図になかった世界』 エドワード・P. ジョーンズ/著 白水社
- 『ワンダーランドの悪意』 ニコラス・ブレイク/著 論創社
- 『世界史の中のアラビアンナイト』 西尾 哲夫/著 NHK出版

日本文学

- 『アッティラ』 初山 市太郎/著 光文社
- 『銀婚式』 篠田 節子/著 毎日新聞社
- 『キングを探せ』 法月 綸太郎/著 講談社
- 『口紅のとき』 角田 光代/著 求竜堂
- 『限界集落株式会社』 黒野 伸一/著 小学館
- 『警備員日記』 手塚 正己/著 太田出版
- 『千里伝』 仁木 英之/著 講談社
- 『てのひらの父』 大沼 紀子/著 ポプラ社
- 『ネオカル日和』 辻村 深月/著 毎日新聞社
- 『花咲小路四丁目の聖人』 小路 幸也/著 ポプラ社
- 『ヒート』 堂場 瞬一/著 実業之日本社
- 『星月夜』 伊集院 静/著 文芸春秋
- 『真夜中の手紙』 宮本 輝/著 新潮社
- 『毎日がいのちのまつり』 草場 一寿/著 サンマーク出版
- 『老年の流儀』 三浦 朱門/著 海竜社

歴史・時代小説

- 『あるじは秀吉』 岩井 三四二/著 PHP研究所
- 『大島高任』 半沢 周三/著 PHP研究所
- 『加藤清正虎の夢見し』 津本 陽/著 幻冬舎
- 『北の五稜星』 植松 三十里/著 角川書店
- 『御隠居忍法刺客百鬼』 高橋 義夫/著 中央公論新社
- 『さむらい』 鳥羽 亮/著 祥伝社
- 『冬姫』 葉室 麟/著 集英社



『赤木かん子の図書館員
ハンドブック』
赤木 かん子/著
新座: 埼玉福祉会

著者の赤木さんは、児童向けにも図書館の使い方の本を書いている方です。図書館の仕事を知るためのわかりやすい一冊。



『北海道の新顔野菜』
安達 英人/監修
北海道協同組合通信社

道の駅や直売所の話題といえば、身近なスーパーでは見かけない新顔野菜。その育て方、料理の方法が一冊にまとまりました。



『コミケの教科書』
小山まゆ子と
オタクな仲間たち/著
テータハウス

同人誌即売会『コミケ』にはこんな独自のマナーやモラルがあった?! 参加の時に失敗しない方法をまとめた参考書。



『翁-OKINA』
夢枕 獯/著
角川書店

当代一の貴公子光の君が外法陰陽師・蘆屋道満と共に怪異に出会う。夢枕漢がえがく、もう一つの平安時代。

本の情報・話題の本

図書館に住む本の話

今回のテーマ：卓球の本

しっかり雪が根付いてしまったこの時期、日課だったウォーキングも足下が怖くて少しさぼり気味。そんな時も、卓球なら老若男女・初心者にも手軽に楽しめるスポーツです。

DVD付の『卓球パーフェクトマスター』で基礎・応用を学んだ後は、『世界最強中国卓球の秘密』で卓球大国の秘密を研究してみてもいい。

今年開催されるロンドンオリンピックの楽しみがきっと増えるはずですよ。



予約本ランキング



「マスカレードホテル」
東野圭吾(123)

- 2 『謎解きはディナーのあとで』 東川篤哉(107)
- 3 「真夏の方程式」 東野圭吾(103)
- 4 『境遇』 湊かなえ(92)
- 5 『人生がときめく片づけの魔法』 近藤麻理恵(88)
- * 「ジェノサイド」 高野和明(66)
- * 『謎解きはディナーのあとで2』 東川篤哉(63)
- * 「麒麟の翼」 東野圭吾(60)

1月24日現在

芥川賞・直木賞決定(2011年度後期)

「道化師の蝶」(群像7月号)

円城 塔/著

「共喰い」(すばる10月号)

田中 慎弥/著

2012.1.24現在書籍での所蔵がありません。
掲載雑誌にてご覧ください。

芥川賞

「蝸ノ記」

葉室 麟/著 祥伝社

【著者の既刊】

「冬姫」 集英社

「星火瞬く」 講談社

「刀伊入寇」 実業之日本社



直木賞

時代小説は昔も今も根強い人気があるのではないのでしょうか。少し前には「歴女」なんて言葉も聞かれ、ちょっとした歴史ブームになっていたのは記憶に新しいと思います。かくいう私も最近歴史モノにはまりだした一人です。まだまだビギナーですが、最近読んで面白かったちょっと変り種(?)の本をご紹介します。

「天地明察」沖方丁/著：

国産暦の生みの親、渋川春海が主人公。

江戸時代、「日本独自の暦を作る」という大プロジェクトが立ち上がります。生涯をかけてそのミッションに挑む春海の実直で素直な姿は読んで私たちに勇気を与えてくれます。2010年本屋大賞を受賞した本作は、映画化も決定し、今年の秋に上映予定となっています。出版年は2009年と少し前ですが、今年も話題となりそうです。

「仲達」塚本青史/著：

三国史でおなじみ、諸葛亮のライバルであった司馬懿(しばい)が主人公です。“死せる諸葛は本当に仲達を走らせたのか？”このコンセプトのもとに書かれた物語は、今までの司馬懿のイメージを変えてくれます。

「蘭陵王」田中芳樹/著：

中国の北齊の皇族、高長恭(こうちょうきょう)が主人公の物語です。作者曰く、「『三国志演義』に登場していたらさぞ熱狂的なファンがついたことだろうが、そうではないので無名のままである。何とまあ、もったいない」とのこと。確かにもったいない!と思わせるほど、眉目秀麗・白哲美貌の名将、高長恭の悲劇的な生涯が作者の丹念な取材によって魅力的に書かれています。

小説を読んでもっと興味を持った!と言う方は、深く調べてみるのも面白いかも知れません。今回ご紹介した本(「仲達」以外)の巻末には、「参考文献」が載っていますので、それを基に本を選ぶのも一つの方法です。1冊の本から新たな1冊と出会えるのも本を読む醍醐味かも知れませんね。

『仲達』
塚本 青史/著
東京：角川書店

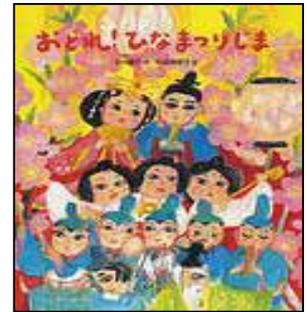


図書館員の読書日記
今回はIKJの日記です

こどもの本のページ



「ふでばこのなかの
キルル」
松成 真理子 / さく
白泉社 F7



「おどれ!
ひなまつりじま」
垣内 磯子 / さく
松成 真理子 / え
フリューベル館 Eオ



「くまとクマ」
松成 真理子 / さく
童心社 Fク

松成 真理子さん

1959年大分県生まれ。
広告のイラストレーションから、絵本
まで幅広く活躍。
絵本『まいごのどんぐり』（童心社）
で第32回児童文芸新人賞受賞。
（「くまくんとつき」プロフィールよ
り抜粋）



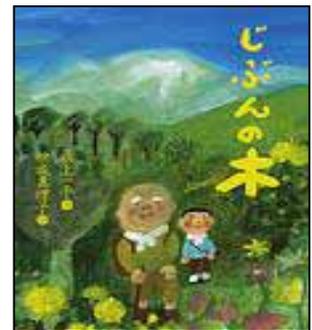
「ころんちゃん」
まつなり まりこ / さく
アリス館 Fコ



「トイレせんちょう」
片平 直樹 / さく
松成 真理子 / え
フリューベル館 Fト



「くまくんとつき」
（おたんじょう月おめ
でとう9月生まれ）
中川 ひろたか / ぶん
松成 真理子 / え
白中図冊社 Fオ



「じぶんの木」
最上 一平 / さく
松成 真理子 / え
岩崎書店 Fシ

あたらしい本



12～1月に届いた本から
ピックアップ

「とりをよぼう！」 48ト

ひさかたチャイルド

いつも遠くから見ている鳥も、近くで見ると、発見がいっぱい!

庭やベランダに鳥を呼んで、観察する方法を美しい写真で紹介。

鳥を呼ぶ上での注意点も収録。

楽しく知るうちに、生きものへの愛情が生まれてく



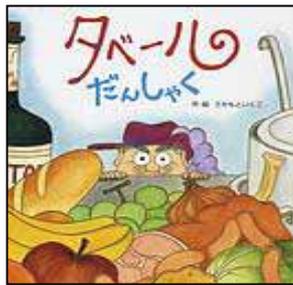
「タベルだんしゃく」 Eタ

さかもと いくこ / 作・絵

ひさかたチャイルド

とあるレストランの壁に飾られたタベル男爵の絵。この絵には、ちょっと秘密がある。

お店も閉まり、真夜中になると、男爵が絵からこっそりぬけて、お店の食べ物をつまみ食い。おかげで太ってしまった男爵は...



「空色の凧」 93ソ

シボーン・パーキンソン / 作, 渋谷 弘子

/ 訳, 陣崎 草子 / 画
さ・え・ら書房

「凧の色は金曜日の青でなきゃ」 そんなおかしなことを言う少年ハルは空と同じ色の凧を作った。幼いころに死んだ父とした凧あげ...

母親の再婚を前にして、心の奥に封印していた過去と向き合う少年の物語



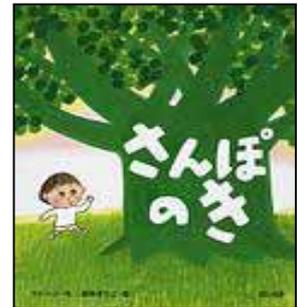
「さんぼのき」 Eサ

サトシン / 作, 真珠 まりこ / 絵

文溪堂

公園にある「さんぼのき」は、みんなが集まる木...

東日本大震災の災禍を乗り越え、すべての人の心が毎日少しずつ育ち、未来へ向かって歩いて行けるようにとの願いを込めて描く、木と少年の絆の物語。



よみきかせ会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

苦小牧子どもの本の会
(第1・第3日曜日)

2月5日・2月19日
3月4日・3月18日
午後3時～3時30分

にじのはし

(第2土曜日)

2月11日・3月10日
午後11時～11時30分

(第4土曜日)

2月25日・3月24日
午前11時～11時30分
午後2時～2時30分

ストーリーテリング

おはなし会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

おはなしオルゴール

(第3土曜日)

2月18日・3月17日
午後2時～2時30分

かみしばい

紙芝居

会場 サンガーデン
定員 40名

かみしばいおじさん

(第2土曜日)

2月11日・3月10日
午後2時～2時30分

ていきてき ぎょうじ

定期的な行事の おしらせ

めいさく

じょうえいかい

名作アニメビデオ上映会

会場 2階講堂
定員 70名

「ねぎぼうずのあさたろう」などでおなじみの飯野和好(いいのかずよし)さんの作品や世界の名作絵本のビデオを上映します

(第2・第4日曜日)

2月12日・2月26日
3月11日・3月25日
午後2時30分～3時

郷土・参考資料室からのお知らせ

苫小牧の公営バスの始まり

平成24年3月をもって、市から民間移譲される苫小牧市のバス事業は、北海道内で最後の公営バスとして存続していました。2月から3月にかけて、図書館エントランスでは展示テーマに「苫小牧市営バス」を取り上げます。

戦前における公営バス計画

昭和初期、勇払に大日本再生製紙が立地されるに伴い、交通の便を確保するため、公営バス事業の計画が持ち上がりました。昭和15(1940)年12月10日の町議会でバス事業案が町より提出され、議会は同日をもって原案可決としました。しかし戦時下では、車や燃料の確保が困難であり、軍事・警防上、国からの事業免許の許可も下りず、頓挫してしまいました。

市営バスの始まり

戦後、苫小牧の公営バス事業の開業は市制施行も契機となり、市と市議会が中心になって運動を続けていました。昭和25(1950)年4月に、8路線が運輸省(現在の国土交通省)に認可されると、同年8月24日、5台のバスと共に、その歴史をスタートさせました。バス事業開業式は、支笏湖産業道路(現在の国道276号線苫小牧-分岐点)の竣工式と同時に行われ、道内外から120名もの名士を招いた大がかりなものでした。この時運行開始した路線には支笏湖へ向かう観光バス路線も含まれていました。この路線にはロマンスカー(2人が横に並んで座れる座席を備えた車)が割り当てられ、一日3往復、繁忙期は増便するほどの花形路線でした。

バスの色とかたち

現在のバスは、赤とクリーム色の四角い車体ですが、運行当初は下の写真のようにボンネットタイプでした。色はエンジとコバルトブルーのツートンカラーだったそうです。当時のカラー写真がないのが残念ですね。



参考資料

「苫小牧市史下巻」(HT211.7/ト/2)
「とまこまい市営バス事業概要」(HT685.5/ト)
(新聞)苫小牧民報(南北海)

新着図書を紹介

新しく入った資料をご紹介します

『必携古典籍古文書料紙事典』

(O20.2/レ)

宋倉 佐敏 / 編著
東京：八木書店 / 刊



古代から近世まで、古典籍・古文書・経典・紙幣等、あらゆる用紙について具体的な調査方法と成果を紹介しています。紙の種類は聴覚によっても、大まかな判別をつけられるそうです。別冊付録に「繊維判定用和紙見本帳」と「簀目測定帳」が付いており、実際に触って確かめることができます。

『近世日本の北方図研究』

(H291.1/キ)

高木 崇世芝 / 著
北海道出版企画センター / 刊



江戸時代初期から明治初年の約280年間にわたって日本で作成された北方図の変遷をたどった本。一つ一つの地図を丁寧に解説しています。イエズス会宣教師による蝦夷図なども紹介されており、日本人の手による地図とは趣が異なり面白い。巻末に索引付き。



これらの本は2階郷土資料室で見ることができます。

参考図書室・郷土資料室の ご利用に際して

かばん等の持ち込みはできません。手荷物をロッカーにお預けの上、筆記用具類のみをお持ちになってお入りください。

資料室には自習のための席はありません。自習する方は、2階電子情報サロン隣の『自習室』をご利用願います。

ふるさとの一片(51)

～郷土資料コーナーで見つけた～

沼のスケートリンク

- 氷都苦小牧の源となった
天然リンク -



樽前山神社沼の天然スケートリンク(昭和7年)

第八十四回インカレ開幕

平成二十四年(二〇二二)の新年を迎えてすぐの一月六日に、苦小牧市で第八十四回日本学生氷上競技選手権大会が開幕しました。大会は通称「インカレ」と呼ばれ、大学対抗の氷上競技としては全国最大規模を誇ります。四日間の日程で、千人以上が参加する大きな大会です。

インカレの歴史は古く、第一回目は大正十四年(一九二五)長野県松本市で開催されています。苦小牧での開催は昭和二十六年(一九五一)第二十三回大会が初めてで、今回のインカレは四年ぶりの通算八回目となります。地元の新聞、苦小牧民報は開幕日の紙面に「全国百七大学から千七十二人の選手が集結。スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーの三競技で学生日本一の座を懸けて、市白鳥アリーナなど五会場で九日まで熱戦を展開する」と紹介しています。

神社沼のスケートリンク

苦小牧はスケートがさかんな町です。それは地名(ト・マコマイ)「沼のマコマイ川」の由来ともなったト(沼)とも大きく関わります。もちろん、それは沼が凍ってできる天然

のスケートリンクが多く存在したことによりです。沼のおかげで「トマコマイ」という地名ができ、苦小牧のスケート人口も爆発的に増えたといっても過言ではありません。

サバナイ(佐羽内)沼

苦小牧における正式なスケートリンクは、昭和六年(一九三一)に造られた苦小牧スケート協会専用リンクが始まりです。それは、まさにト(沼)の由来となった樽前山神社の前にあつた大きな沼(神社沼)を改修して造つたもので、周囲二百五十メートル、内側にホッケーリンク一面を持っていました。同年には王子製紙のアイスホッケー部が正式に結成され、全道大会で優勝します。翌七年には全日本選手権大会で初優勝をかざり、以後アイスホッケーの王子の名を全国にとどろかせます。その活躍ぶりも後押しをして、昭和十

年代には王子製紙工場構内に東洋一とつたわれた会社専用リンクが造られ、昭和十六年(一九四一)に国体の前身である紀元二六〇〇年奉祝明治神宮大会が盛大に開催されました。その後、このリンクは昭和三十三年(一九五八)の王子スケートセンターの完成に伴い昭和三十六年に埋め立てられ新工場が建てられました。

神社沼以外にもスケートリンクとして使われた沼は多く存在しました。なかでもサバナイ(佐羽内)沼は有名で、昭和八年(一九三三)二月に

は第六回全道氷上競技選手権大会が行われました。サバナイ沼は現在市営住宅が建っている山手町一丁目であり、背後に王子製紙の所有する木のない山があつたため「坊主山の沼」と呼ばれていました。この沼には大量のコイが生息していましたが、大会を終えた春に大量死しましたが、氷上大会の騒々しさが原因で冬眠中のコイがショック死したのは明らかで、サバナイ沼での公式大会はこれが最初で最後となりました。

雪が少なく寒冷な気候と沼の多い地形という、スケートには絶好の自然環境が氷都苦小牧を作り上げていたのでしょう。そしてそれら大小の沼は開発とともに埋め立てられ、次第にその姿をなくし、人々の記憶からも消えていきます。(大泉)

引用 参考資料

苦小牧市史(下)(追補編)

サバナイ沼物語 加藤啓子

行事のお知らせ

本の修理講習会

講師に札幌市立図書館で本の修理ボランティアとして活躍中の坂上吉武氏をお招きし、本の修理についてのお話と、実践として年賀はがきの製本をおこないます。ふるってご参加ください！

日時 2月23日(木) 13時30分～15時30分
 会場 中央図書館 2階 講堂
 対象 苫小牧市民の方
 定員 20名(参加費無料)

申込 2月14日(火)までに
 中央図書館・各図書コーナーのカウンターへ
 または 電話 35-0511

定員を超えた場合は、
 2月15日(水)に抽選を行います
 当日必要な持ち物(各参加者が持参)
 ものさし(30cm程度)、はさみ、カッター、わりばし1膳、年賀はがき40枚、はがきの製本で表紙に使う紙(千代紙、お菓子の包装紙など、好きな柄のもの)

図書館文化セミナー

「わらべうたと絵本で深める親子のきずな
 ～子どもといっしょに おとなもいっしょに 子育てって楽しいよ!～」
 絵本、てあそび、わらべうたをおりませた、パパ、ママ、ちびっこ講座です。
 ふるってご参加ください！

日時 3月11日(日) 10時30分～12時
 会場 中央図書館 2階 講堂
 講師 NPO法人 子育て応援かざぐるま
 対象 0～1歳の子どものとその保護者
 定員 親子30組60名(参加費無料)

申込 2月8日(水)から受付開始
 直接、中央図書館カウンターへ
 または 電話 35-0511
 先着順のため、定員になり次第締切

寄付・寄贈ありがとうございました。(平成23年11月21日～平成24年1月20日)
 個人 116件 2266冊 団体 54件 130冊

展示コーナー 今後の予定	閲覧室入口 我輩は である ～2月23日 小説「のぼうの城」 その魅力的な時代と人物 2月25日～3月25日	児童コーナー ヒーロー・ヒロイン ～2月23日 ふわふわ・あわあわ 2月25日～3月25日
	一般書コーナー(新刊棚) 冬眠中の筋肉を目覚めさせる ～2月23日 新着! YAのほん 2月25日～3月25日	一般書コーナー(検索機構) 新書が語るビジネス ～2月23日 ミステリフロンティア 2月25日～3月25日
	エントランスホール 苫小牧市営バス ～3月25日	

休館日の展示の公開はありません。
 行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

中央図書館カレンダー

黒塗り白字になっている日は休館日です
 丸印がついている日は午前9時30分～午後5時開館
 印が付いていない日は午前9時30分～午後7時開館

平成24年2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	(25)
(26)	27	28	29			

11日 建国記念の日

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
	19		21	22	23	(24)
(25)	26	27	28	29	30	31

20日 春分の日

4月

日	月	火	水	木	金	土
	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	(21)
(22)	23	24	25	26	27	(28)
(29)	(30)					

29日 昭和の日

30日 振替休日